

第118回古民家歴史部会歴史探訪

「東海道の宿場探訪シリーズ・第13回」

文責:神田恵仁

平成29年6月7日(水) 「戸塚宿(3)」

集 合：JR戸塚駅東口2F橋上広場9時50分集合(時間厳守)

(1)行 程：下記探訪先に同じ

(2)食事 場所：自由行動

- ①お軽勘平の碑：忠臣蔵で有名な赤穂浪士早野勘平と腰元おかるとの恋の逃避行【戸塚道行の場】に因んで作られた。
- ②吹上の一里塚と松並木：天正18年(1590)徳川家康の江戸入りの際、道を南に求め、初めて戸塚を通過したのが今の東海道という。慶長9年(1604)戸塚宿が置かれる。3代将軍家光の時、早(日照り)が続き、歩行者に死者が続出、幕府は東海道に一里塚を設け、マツ、ケヤキなどが植えられた。
- ③浅間神社：室町時代の永禄年間(1558～1570)に、その頃盛んであった富士信仰をもとに村内安全を祈願し請願されたといわれる。境内には樹齢600年を超える古木がある。
- ④大運寺：浄土宗の寺。本尊・阿弥陀如来。歩道橋下空き地に庚申塔群あり。
- ⑤ウイトリッヒの森：戸塚区の南西部。40～50年生の雑木やモウソウ竹の林のほか、植物や昆虫、野鳥、宝庫。スイス人のアーノルド・ウイトリッヒさん(昭和58年没)がふるさとの風景によく似てたこの森を、生前にこよなく愛し、大切に育ててきたのです。その遺志を継いだ奥さんの津田ひ亭さん(昭和61年没)から横浜市に寄附したものです。この森は昭和62年5月から「横浜市民の森」として一般に公開されています。
- ⑥龍長院：室町時代、相模入道西林が堅心を開山として真言宗の龍長庵を創立、慶安元年(16)に永井丹波守白元の祈願所として堂宇を改築し、宗派も曹洞宗に改宗し寺名も龍長院に改めました。イチョウの大木と池があり、人の顔によく似た鯉の人面魚が泳いでいるといわれます。国道1号線には大きな不動明王像があります。境内には延命地藏を祀る地藏堂、古いお地藏さんも祀られています。
- ⑦八坂神社：八坂大神ともいわれ、祭神名不詳、創立は享保18年(1733)、二股に分かれたツゲの木や道祖、庚申塔等がある。その中に「かまくら道」の道標がある。かまくら道は、通称「西の道」といわれ府中・瀬谷から上飯田を通り、藤沢から鎌倉に入る道であったといわれる。
- ⑧諏訪神社：創建不詳だが、明治40年(1907)に山谷仲町から移転して来た神社で、周辺が「鉄砲宿」と呼ばれていて、武神の諏訪神社を勧請したといわれる。
- ⑨影取池(跡)：影取の地名の由来となった影取池は、東南方100mの谷間にあった(諏訪神社の奥)。国道1号線と藤沢バイパスの分岐点でもある。

【参考資料】「旧東海道と戸塚宿(戸塚区役所)」

「ほんとに歩く東海道(風人社)」

「神奈川県謎解き散策(新人物往来社)」

「東海道五十三次ガイド(講談社)」

「神奈川県の東海道(神奈川県東海道ルネッサンス推進協議会)」

「江戸の旅(河出書房)」他

東海道歴史探訪13

戸塚宿(3)

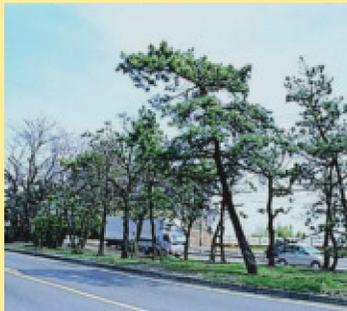
2017.6.7



旧東海道大坂松並木

東海道の並

神奈川県内の東海道を通してみると、川崎宿から箱根宿までの約60%の区間に並木が存在していたことがわかっています。その種類も海沿いの道には松を、そして箱根では杉というように、その土地の自然環境に適した樹木が選ばれています。



大坂の松並木



箱根の杉並木

企業のこだわり
 崎陽軒 → × シュウマイ ○ シウマ
 CANON → × キヤノン ○ キヤノ



「うまいもの戸塚ブランド」に認定された名菓です。
菓匠 亀福
 戸塚区原宿4-1-8
 045-851-1957

「切腹最中(第1回)」「お地蔵さん最中(第10回)」「ワンマン最中(第12回)」に続いて4番目に登場したのがその名もずばり【東海道原宿最中】